



2025 年 9 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社エイチ・アイ・エス
代 表 者 名 代表取締役社長(CEO) 矢田 素史
(コード番号 9603 東証プライム)
問 合 せ 先 取 締 役 新 規 事 業 戦 略 、
リ ス ク ・ コ ン プ ラ イ ア ン ス 、
C S ・ E S 、 総 務 担 当 五 味 睦
(TEL 050-1746-4188)

HIS グループにおける再発防止策実施の進捗報告

当社は、当社グループが受給した雇用調整助成金等において、一部、不正・不適正受給があったことに対し、2025 年 3 月 31 日付「再発防止策の策定に関するお知らせ」のとおり、再発防止に取り組んでおります。このたび、9 月 12 日時点における再発防止策の進捗状況について、下記のとおりご報告いたします。

記

1. コンプライアンス意識の醸成

2025 年 6 月 13 日付「HIS グループにおける再発防止策実施の進捗報告」のとおり、トップメッセージのグループ全体通達と外部講師によるグループ内役員向けリスク・コンプライアンス研修により、コンプライアンス意識の統一を行いました。

引き続き、各階層に向けての研修を継続的に実施しており、現在は労働法規や労務管理に関する研修（勤怠管理に潜むリスクを認識させるための本事案を元にした意識改革研修）を行っております。

さらに、コンプライアンスを身近に捉えられる教材・コンテンツ（他社事例集・ケーススタディ・ミニテスト等）を活用したメールマガジン等を月に 2 回テーマを変えて配信することにより、グループ内のコンプライアンス意識の浸透を推進しております。

2. グループガバナンスの強化

グループガバナンスの脆弱性に対応するために、2025 年 4 月に設置した子会社ガバナンス検討委員会において、全てのグループ会社役員の選任基準、任期基準、評価制度等の討議を重ね、これらのルールを関係会社管理規程に盛り込むことで、子会社のマネジメントの固定化防止を図ります。引き続き、子会社管理体制を見直し、長期的なグループガバナンスの高度化を推進してまいります。

さらに、課題などの情報共有を促進することで、親会社と子会社間のコミュニケーション強化に努めております。関係会社管理本部及び海外事業統括本部が、主要国内子会社及び海外地域統括子会社を対象に、各子会社の主要な会議体に参加する等、コミュニケーションの頻度を高めております。

3. 公的助成金の申請における内部統制の見直し

2025 年 6 月の関係会社管理規程の改定により、親会社への報告事項に公的助成金等の申請の項目を追加しました。国内子会社での助成金申請の管理や親会社への報告に関するルールを明確にし、グループ内周知と運用を開始しております。親会社の公的助成金については、申請、管理に関する内部統制を含む業務フローを構築し、運用を開始しております。

4. 労務管理の徹底

労働法規に対する理解不足を補うために、国内第二線の勤怠管理者への労働法規や労務管理に関する研修を実施しました。

さらに、勤怠管理の新たな手法として、当社では勤怠記録と実態の乖離をモニタリングするシステムを段階的に導入しております。国内子会社につきましては、不正受給が認められた子会社には当社と同じシステム導入を決定し、その他の子会社は各社の実態に合わせて、システム導入の是非を検討しております。海外子会社は、労務管理のモニタリングの仕組みを構築中です。

5. 内部通報制度の周知及び活用の促進

内部通報制度の信頼性を高めるため、グループ全体へ月 1 回の定期的な情報発信や啓蒙活動を継続し、活用を促進しております。信頼度の計測は、現在グループ全体で実施中のコンプライアンス意識調査で行います。

また、現存の外部相談窓口では、必要な社内対応を当社の従業員が行うため、当社取締役に関する通報を躊躇う可能性を考慮し、取締役監査等委員が社内対応を行う新たな運用を 2025 年 9 月に開始いたしました。内部通報の一層の活用により、問題の未然防止、早期発見につなげます。

6. 内部監査体制の見直し

内部監査規程の改定をおこない独立性と権限を強化したうえで、人員増強も段階的に実現しており、専門性向上のための外部研修受講や、受講後の部内勉強会を実施しており、継続します。

また、データ分析活用による不正監査の見直しを進めており、内部監査の効率、効果を高めてまいります。

引き続き再発防止策を着実に実行し改善をおこなうことで、信頼回復に取り組んでまいります。

以上